

平成22年度 教育事務事業点検評価報告書

平成24年3月
宮古島市教育委員会

目 次

事務事業の点検評価書発行にあたって	・・・・・・・・	1
1. 点検評価について		
(1) 点検評価の趣旨	・・・・・・・・	2
(2) 本市の主要施策	・・・・・・・・	2
(3) 点検・評価の方法	・・・・・・・・	2
2. 事務事業評価一覧表	・・・・・・・・	3
事務事業点検評価書		
1. I-1 生涯学習フェスティバル事業	・・・・・・・・	4
2. II-1 学力向上対策事業	・・・・・・・・	5
3. II-2 特別支援事業	・・・・・・・・	6
4. II-3 選手派遣事業	・・・・・・・・	7
5. II-4 学校給食補助金	・・・・・・・・	8
6. V-1 生徒指導体制の確立	・・・・・・・・	9
7. V-2 成人式事業	・・・・・・・・	10
8. V-3 追い込み漁・かつお一本釣体験学習事業	・・・・・・・・	11
9. VI-1 公民館講座の開設	・・・・・・・・	12
10. VI-2 上野地区芸能祭の充実	・・・・・・・・	13
11. VI-3 交流事業	・・・・・・・・	14
12. VI-4 図書館の基本サービス・行事の充実	・・・・・・・・	15
13. VI-5 中央図書館整備事業	・・・・・・・・	16
14. VI-6 子ども博物館事業	・・・・・・・・	17
15. VII-1 全国高校総体開催業務	・・・・・・・・	19
16. VIII-1 文化祭事業「児童・生徒の部」「一般の部」	・・・・・・・・	20
17. VIII-2 市史編さん事業	・・・・・・・・	21
18. VIII-3 博物館企画展	・・・・・・・・	22
19. VIII-4 文化財保護事業	・・・・・・・・	23
20. VIII-5 文化ホール自主事業	・・・・・・・・	24
21. IX-1 北小学校校舎改築事業	・・・・・・・・	25
22. IX-2 宮古島市教育委員の活動事業	・・・・・・・・	26

事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を付し、教育主要施策9項目のうちから22事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

平成24年3月

宮古島市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 点検評価について

(1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、次年度以降の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は平成22年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

(2) 本市の主要施策

- | | |
|------------------|---|
| I 「生涯学習の推進」 | 潤いと生きがいのある生涯学習をめざして |
| II 「学校教育の充実」 | 自ら学ぶ意欲を育て確かな学力の向上をめざすとともに豊かな心の育成をめざして |
| III 「家庭教育の充実」 | 保護者が子どもの教育により密接に関わる事をめざして |
| IV 「国際化・情報化への対応」 | 国際社会に生きる人材及び情報活用能力の育成をめざして |
| V 「青少年の健全育成」 | 豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の育成をめざして |
| VI 「社会教育の充実」 | 家庭・地域の教育機能の活性化をめざして |
| VII 「スポーツの振興」 | 市民が気軽にスポーツに親しむ環境づくりと健康の保持増進及び体力の向上をめざして |
| VIII 「文化の振興」 | 豊かな感性を育む郷土文化の保存・継承をめざして |
| IX 「教育行政の充実」 | 新しい時代を展望した教育行政をめざして |

(3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の五段階で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

2. 事務事業評価一覧表

評価書 番号	所 管 課	事 務 事 業 名	評価
I-1	生涯学習振興課	生涯学習フェスティバル事業	A (拡充)
II-1	学校教育課	学力向上対策事業	A (拡充)
II-2	学校教育課	特別支援事業	A (拡充)
II-3	学校教育課	選手派遣事業	A (拡充)
II-4	学校給食共同調理場	学校給食補助金	A (拡充)
V-1	学校教育課	生徒指導体制の確立	A (拡充)
V-2	生涯学習振興課/伊良部分室	成人式事業	B (継続)
V-3	伊良部分室	追い込み漁・かつお一本釣体験学習事業	A (拡充)
VI-1	市公民館	公民館講座の開設	A (拡充)
VI-2	上野公民館	上野地区芸能祭の充実	B (継続)
VI-3	下地公民館	交流事業	A (拡充)
VI-4	市立図書館	図書館の基本サービス・行事の充実	A (拡充)
VI-5	中央図書館建設準備室	中央図書館整備事業	A (拡充)
VI-6	総合博物館	子ども博物館事業	A (拡充)
VII-1	全国高校総体推進室	全国高校総体開催業務	E (完了)
VIII-1	生涯学習振興課	文化祭事業「児童・生徒の部」「一般の部」	B (継続)
VIII-2	生涯学習振興課	市史編さん事業	B (継続)
VIII-3	総合博物館	博物館企画展	A (拡充)
VIII-4	生涯学習振興課	文化財保護事業	A (拡充)
VIII-5	文化ホール	文化ホール自主事業	A (拡充)
IX-1	教育施設課	北小学校校舎改築事業	E (完了)
IX-2	教育総務課	宮古島市教育委員の活動事業	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

I. 生涯学習の推進

【事務事業名】

「生涯学習フェスティバル」事業

【目的・計画概要等】

目的：広く市民に対し、学習活動の成果発表の場や学習情報を提供することにより、市民一人一人の学習意欲を高めるとともに学習活動への参加を促進し「学び育てる 文化のまち みやーく」をテーマに生涯学習の一層の振興を図る。

計画概要：①公民館利用者や社会教育団体などによる学習活動の展示や舞台発表を行い、生涯学習の普及・啓発活動を行う。
 ②来場者が楽しみながら生涯学習に対する理解を深められるよう、体験・実演・即売コーナーを設置する。
 ③社会教育活動に対し功績のあった個人、団体を表彰する。
 ④生涯学習に関するテーマで記念講演を行う。

予算額：607,000円

【実施状況】

<ul style="list-style-type: none"> ・開催日：平成22年11月13日～14日 開催場所：宮古島市中央公民館 ・社会教育功労表彰：3個人 ・舞台発表：社会教育団体18団体・158名/公民館関係：23団体・301名 ・野外ステージ：8グループ42人 ・活動展示：公民館8館/社会教育団体12団体 ・体験・実演コーナー：理科実験・ロボット体験・ミニ四駆作製・キッズゲーム 特産品等展示即売・読み聞かせ・ミニ映画祭 ・記念講演：平成22年11月19日 講師 興南高校野球部監督 我喜屋 優 氏 演題「小さい事から大きなことへ挑戦」 参加者1,500名 	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	579,599 円
	計	579,599 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	行政や各団体が主催する講座等は、生涯学習の場として重要な位置を占め市民の関心も高い。したがって、その総体的な活動発表の場として当事業は有効である。	近年は、自分の趣味やライフワークとして、新しいことを学んだり自らを高めることが出来る「生涯学習」に対する関心が高まっている。 本市においても各種教室や行政の講座等の開催が盛んであるが、実際に活動している方々は、まだ少数派である。この事業は、多くの市民に生涯学習活動を紹介するよい機会となっており、今後、事業の展開・拡充を図ることは重要だと考える。
効率性	来場者の動員増を図り、費用対効果を高めることが課題だったが、今回は特に講演会に大量動員でき、目標が達成できた。	
有効性	創意工夫された活動展や舞台発表、様々な実演等により、来場者は生涯学習活動に対する理解を深めることが出来た。	

【内部評価】

年々、生涯学習への関心が高まる中、生涯学習の実践を発表する場、機会を提供していくことは、大切であり評価できる。 今後とも継続事業として、生涯学習に関する情報発信・学習成果の発表など、市民ニーズに応える取り組みをしていきたい。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

本事業の目的が「市民一人一人の学習意欲を高めるとともに学習活動への参加を促進」することで「生涯学習の一層の振興を図る」ことであるとするならば、この事業の開催内容（舞台発表や来場者動員数）の評価も大事ではあるが、本事業により学習活動へ参加する市民の増加 → 生涯学習の振興が図られているか否かの評価（評価指標の検討も含めて）が適切ではないかと思えます。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

Ⅱ. 学校教育の充実

【事務事業名】

学力向上対策事業

【目的・計画概要等】

宮古島市立各学校の幼児・児童・生徒一人一人に確かな学力などの生きる力をはぐくむことを目標に学校、家庭、地域との連携を基に、学力向上対策の事業を推進する。

【実施状況】

1. 標準学力調査の実施〔5月・2月実施〕 基礎・基本の学習内容を中心に児童・生徒の学習到達度を確かめ、指導改善に役立てる。 3,263,380円	決算額（財源内訳）	
	2. 学力向上対策補助金交付 幼稚園・小・中学校へ補助金を交付することで、一人一人の確かな学力を育て校（園）内の体制づくりの確立に役立てた。5,524,250円	国・県
3. 総合的学習支援補助金交付実績額 2,430,000円	地方債	円
4. 地域発表会補助金交付(宮原地区) 50,000円 地域の教育力を生かした子ども活動等を通して豊かな心を育む実践活動を行った。	その他	円
5. 研究指定校補助金実績額 620,000円	一般財源	14,211,773 円
6. 外国語活動研究発表会(平良第一小学校)先進地視察等 2,324,143円	計	14,211,773 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	標準学力検査等による児童生徒の実態調査は本市の学力向上対策の重要な事業で各学校からの要望も高い。今後とも充実強化する必要がある。	標準学力検査を実施することで、各学校における児童生徒の実態や変容を把握することができる。 各学校においては、それに基づき校内での指導体制を確立し学習指導に役立てている。今後も学校に対してアンケート調査を行い、諸検査の効果的な活用方法を考えていきたい。 補助金交付に関しては、学校ごと特色ある取り組みが継続的に行われ、教育効果も高い。
効率性	現在の事業を継続しながら、各学校にアンケート調査を行いニーズに応じた学力向上対策事業を実施していきたい。	
有効性	全国学力・学習状況調査の結果から本市の小学校は県平均を下回り、中学校は県平均を上回っている。今後も本市の児童生徒の課題把握を十分行い効果的な事業を推進したい。	

【内部評価】

<p>全国学力・学習状況調査によると、本市の中学校は平均を上回っているものの、小学校においては下回っている現状である。 宮古島市の将来を担う人材づくりには、学力向上は欠かせない要素であり、推進する必要がある。 また、諸課題の把握に努めるとともに、学校・家庭・地域との連携を図り、それぞれの役割分担を明確にすることで、効果ある実践に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (拡充)</p>
--	-------------------------------

【外部評価】

<p>全国学力・学習状況調査等の結果に基づいて、本市の児童生徒の課題解決策を図り、継続して事業推進に努めていただきたい。 また、学力向上対策補助金と総合的学習支援補助金を区分して補助するのではなく、学力向上として一本化した方が学校側もより有効な事業展開ができるのではないのでしょうか。</p>	<p>A (拡充)</p>
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

Ⅱ. 学校教育の充実

【事務事業名】

特別支援事業

【目的・計画概要等】

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善または克服するための適切な指導や必要な支援に努めることにある。このため、宮古島市では障害のある児童生徒に対する教育の一層の充実を図るという観点から、各小・中学校の新たな教育的ニーズに対応するため、特別支援教育派遣事業を行う。

【実施状況】

前年度において、各学校からの特別支援教育支援者依頼書をもとに、配置校を決定し週3日派遣する。特別支援教育支援者は教育長の指揮監督のもと、市教育委員会に籍を置き、教育的ニーズのある小中学校に勤務し、該当校における指導方針に基づいた特別支援教育に係る支援を行う。 <H22年度配置校> ○小学校5校（南、上野、東、宮島、城辺） ○中学校3校（北、池間、佐良浜）	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	7,125,000 円
	計	7,125,000 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	従来の特殊教育対象の障害だけでなく、LD（学習障害）やADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症も含めて、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて一人一人の教育的ニーズへの支援の要望が高い。	障害のある児童生徒に対するなお一層の教育の充実を図る観点から、各学校の教育的ニーズに対応する支援員の派遣事業は今後とも充実強化する必要がある。
効率性	各学校からの支援員派遣依頼が多く、支援員の配置がまだ十分でないが、学校の自助努力により運用している。支援員の人数は最低15名確保したい。	<成果> 支援員配置により、各学校で障害のある児童生徒の意欲的な学習活動や生活または学習上の困難を改善・克服することができている。 <課題> 専門的な知識を持った支援員の配置ができていない。
有効性	各学校の特別支援教育コーディネーターを中心として、特別支援に対する認識の高まりが見られ保護者からの支援員に対する期待も大きい。	

【内部評価】

平成19年に学校教育法に位置づけられ、特別支援教育を必要とする児童生徒への支援がさらに充実されるようになった。 支援員においては、学校・家庭との連携を十分に行い、当該児童生徒の日常生活などの実態の把握に努め、適切な対応をしていきたい。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

まず、学校教育法が普通の公立小中学校にこれだけ高度な専門性を要する教育・支援を強いているのかと驚いています。宮古島市では、担当者が課題に挙げている「特別支援学校教員免許保持者や作業療法士、臨床心理士、特別支援教育士など」専門的な知識をもった支援員の配置は可能なのでしょうか。ぜひ、保護者の要望に沿えるような配置を期待しています。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

Ⅱ. 学校教育の充実

【事務事業名】

選手派遣事業

【目的・計画概要等】

<目的>

宮古島市立学校の児童・生徒が沖縄県又は宮古地区代表として島外へ派遣された場合、派遣費の一部を予算の範囲内で補助することによってスポーツ及び文化の振興を図るとともに、児童・生徒の健全なる育成に寄与することを目的とする。

<概要>

補助対象（地区大会で団体又は個人競技で優勝・準優勝・3位又は宮古地区代表（宮古選抜等））として派遣される者。

小学校 県内 5,000円 県外 28,000円
中学校 県内 8,000円 県外 33,000円

【実施状況】

	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
(1) 小学校選手派遣補助（優勝・準優勝・第3位又は宮古地区代表に助成） 県内 5,000円 県外 28,000円 【実績額】 県内 5,000円×712名=3,545,000円 県外 28,000円×35名=980,000円 合計=4,525,000円	地方債	円
	その他	円
(2) 中学校選手派遣補助（優勝・準優勝・第3位又は宮古地区代表に助成） 県内 8,000円 県外 33,000円 【実績額】 県内 8,000円×1,394名=11,152,000円 県外 33,000円×37名=1,221,000円 合計=12,373,000円	一般財源	16,898,000 円
	計	16,898,000 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	保護者の経済的な負担の軽減が図られる事からしても今後とも充実させたい。 派遣費補助金を増額することにより、多くの児童・生徒が県内外の各種競技・コンクールへ積極的に参加できるようになり、スポーツ及び文化の振興に寄与することができた。	選手派遣補助事業については、平成21年度に大幅な増額があり学校・保護者に好評である。 しかし補助対象を「優勝・準優勝」とした事で補助金は増額したが補助対象が減った事に疑問の声も聞こえていた。平成22年度は、学校関係・保護者の意見を聞き取り補助対象を3位までとしたが、今後とも保護者の負担軽減を図るために派遣事業の在り方について意見を聞き取りながら、検討を重ねていく必要がある。
効率性		
有効性		

【内部評価】

スポーツや文化活動においては、県内外でも活躍できる児童生徒が多く見受けられるようになった。選手等への派遣事業は、見直しを行い保護者への負担軽減がなされているが、まだ検討する余地があるため、実態を把握した上で、今後も人材育成のために貢献するよう努めたい。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

頑張っている子ども達を応援する制度はとても大事だと思います。以前に比べ、1人当たりの助成額もかなり増になってうれしく思います。 ただ、種目や主催によって対象になったりならなかったり（少年野球は対象ですか？）で担当者も悩むところでしょうか。 学校現場や保護者としっかり意見交換をして極力不公平感を軽減するよう望みます。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校給食共同調理場

【主要施策】

Ⅱ. 学校教育の充実

【事務事業名】

学校給食補助金（扶助費）

【目的・計画概要等】

【目的】
 学校給食は、児童及び生徒の心身の健全な発達、かつ、国民の食生活の改善に寄与するものであることに鑑み、学校給食の実施に関して必要な事項を定め、もって学校給食の普及充実を図ることを目的とする。

【計画概要】

- ・学校給食の実施
- ・アレルギーに対する指導及び対応

【実施状況】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の学校給食が安全に実施された ・アレルギーに対する指導・給食を行った ・児童生徒 小学校=3, 587人 中学校=1, 857人 ・その他 学校給食費は1カ月当たり 小学校=3, 100円 中学校=3, 400円 	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	16,332,000 円
	計	16,332,000 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	学校給食は食生活の改善と児童生徒の心身の健全な発達に大いに貢献している。 今後とも学校給食は実施していくべきである。	学校給食補助金(扶助費)は児童生徒の給食に対して、補助を行うことで、児童生徒の給食費の負担軽減が図られた。
効率性	学校給食費補助金(扶助費)を行うことで、児童生徒の給食費の負担軽減が図られた。	
有効性	心豊かで、心身ともに健全な児童生徒の育成には、食育は重要であり、学校給食の役割は大きく、今後も維持していくことが望まれる。	

【内部評価】

学校給食は、心身ともに健全な児童生徒を育成するため食育は重要であり、学校給食の果たす役割は大きく、今後も維持していくことが望まれる。 地産地消については、安心・安全面の上からも積極的に取り入れる必要がある。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

宮古島市の給食費の保護者負担は県内市町村で3番目に低いようですね。 成長期の子ども達にとって給食は非常に大事なものです。 保護者負担が低くて支障があるのなら保護者に説明してあげる方向で検討し、補助金が十分なので保護者負担が低くなっているのであれば今後ともこの補助金額を維持することが望ましいでしょう。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

V. 青少年の健全育成

【事務事業名】

生徒指導体制の確立(①宮古島市スクールソーシャルワーカー配置事業・②問題行動等に対する学習支援者配置事業)

【目的・計画概要等】

①問題を抱える幼児児童生徒に対して、関係機関・地域環境へ働きかけ、問題の改善を図る業務内容。家族や学校から相談を受け、当該児童生徒が置かれた状況に応じて、福祉・保健・医療等の関係機関と連携や学校や関係機関を交えてのケース会議を開催したりするなど、多様な支援方法を用いて、問題解決を図る。
(教育相談が必要な場合は、スクールカウンセラー、まていだ教室、市教育相談室、保護者の経済的問題には、生活保護の受給に関するアドバイスや手続きの助言等)
②教室には入れない生徒(保健室登校・別室登校等)の学習指導や教育相談を行う。また、生徒指導主任と連携し、問題行動や不登校等の実態把握、校外指導、統計資料の作成などで補助にあたる等教育活動の支援を行う。

【実施状況】

①派遣型 支援状況として、不登校、登校しぶり、いじめ、暴力行為、児童虐待(疑い)、非行不良行為、家庭環境問題、心身の健康及び保健に関する問題(心因性)等へ、学校・福祉・医療等各関係機関との情報共有・行動連携を図った。 (1) 昨年度支援学校数 <table border="1"> <tr><td>小学校</td><td>12校</td></tr> <tr><td>中学校</td><td>11校</td></tr> </table> (2) 昨年度支援対象児童生徒数 <table border="1"> <tr><td>小学校</td><td>28名</td></tr> <tr><td>中学校</td><td>44名</td></tr> </table>	小学校	12校	中学校	11校	小学校	28名	中学校	44名	②配置型(伊良部4校、北中配置)支援状況として、不登校、登校しぶり、暴力行為等へ、生徒指導主任を中心に各担当教諭と連携し、各関係機関との情報共有・行動連携を図った。 (1) 昨年度支援対象生徒数 <table border="1"> <tr><td>中学校</td><td></td><td>9名</td></tr> </table>	中学校		9名	決算額(財源内訳)	
	小学校	12校												
	中学校	11校												
	小学校	28名												
	中学校	44名												
	中学校		9名											
国・県		円												
地方債		円												
その他		円												
一般財源	9,414,000	円												
計	9,414,000	円												

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	①②共に問題を抱える児童生徒及び家庭は年々増加(特に家庭環境問題)しており、支援のニーズも多種・多様化している。	年々問題を抱える児童生徒の支援内容が多様化し、特に家庭問題での医療福祉等関係機関との連携が重要となっている。 昨年度は関係機関(児童家庭課、児童相談所、警察署、病院等)とのケース会議開催や研修会への派遣が行われ、支援体制の構築が強化されている。また、離島である伊良部地区(4校)への支援体制(要請による派遣)の充実を今年度は図りたい。
効率性	①派遣型の体制で各学校・保護者からの支援要請により、学校・関係機関との連携を図っている。 ②配置型の体制で、校内の生徒指導主任、学年主任、担任、養護教諭との連携を図っている。	
有効性	①②状況に応じて、福祉・保健・医療等の関係機関と連携や学校や関係機関を交えてのケース会議を開催し多様な問題解決を図っている。	

【内部評価】

近隣住民との付き合いの希薄化、携帯電話の普及等社会情勢が変化しつつある近年、問題行動を抱える児童生徒は増加、多種多様傾向にある。 そういった中、学校と家庭及び地域との協力体制が重要となってくるため、日頃から支援要請があった児童生徒においては、専門の関係機関に繋げ、経過観察も行い、支援体制の充実を図っていききたい。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

これまで多くの問題解決に努めてきたことと思われま。近年の社会情勢から学校や家庭、関係機関とのパイプ役として、期待するものです。 内部評価に関して、事業の目的が「多様な支援方法を用いて問題解決を図る」のであれば、この事業を行ったことで、どの程度の問題解決が図れたかの視点から評価するほうが適切ではないかと思ひます。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課・伊良部分室

【主要施策】

V. 青少年の健全育成

【事務事業名】

成人式事業

【目的・計画概要等】

<平良・城辺・下地・上野>

晴れて成人の仲間入りをする若者たちの輝かしい出発にあたり、社会人としての責任をもって活躍することをその門出を祝福し激励する。対象者は平成2年4月2日から、平成3年4月1日までに生まれた方、宮古地区に住居登録されている方、就学や就職等で市外に居住している本市出身の方とする。内容は、スライドショー、アトラクション、市歌の斉唱を行い、新成人者による誓いのことばを発表してもらう。

①日時等：平成23年1月5日(午後2時～) マティダ市民劇場

<伊良部地区>

晴れて成人の仲間入りをする若者たちの輝かしい門出にあたり、社会人としての自覚と責任を持って活躍することを期待し、祝福し激励する。

①対象者：伊良部・佐良浜地区成人者 ②日時等：平成23年1月5日(午後2時～) 伊良部公民館

③式典：オープニング(とうがにあやぐ・湧川絢子 他)

第一部(開式のことば・式辞・祝辞・誓いのことば・閉式のことば)

第二部(記念講演：きしもと内科医院長・岸本邦弘氏)

④記念撮影：成人者全員 ⑤記念植樹：成人者代表・記念講演講師

【実施状況】

<平良・城辺・下地・上野>

成人対象者：741人(男372 女369)

スライドショー：中学校卒業アルバムより

アトラクション：○成人者代表によるパフォーマンス(ダンス)

○パニパニJr&宮古地区少年補導委員協議会

○パニパニJr&みーや

○書道パフォーマンス 池田書道塾

市歌斉唱：みやこ少年少女合唱団 指揮 宮国貴子 伴奏 兼島美保

誓いのことば：下地地区代表 友利寿 城辺地区代表 久貝涼歌

上野地区代表 小禄洋平 平良地区代表 松岡愛美

<伊良部地区>

本年の伊良部地区成人式は、新成人73人(男38人、女35人)が晴れて大人の仲間入りし、保護者や大勢の出席者から祝福を受けた。式典は午後2時から始まり、教育長の式辞、議会副議長の祝辞の後、新成人の代表が感謝と今後の抱負を述べた。

第二部は、きしもと内科医院長の岸本邦弘氏「二十歳、これからもっと羽ばたくために」と題して講演した。式典後は、記念撮影と記念植樹が行われた。

決算額(財源内訳)

国・県	円
地方債	円
その他	円
一般財源	296,312 円
計	296,312 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	島を離れた者や島に残った者が一堂に会し、それぞれの目標を語る起点の場となり、成人者としての自覚・責任を持つきっかけを与える。	<平良・城辺・下地・上野> 成人式を島をあげてお祝いすることで、島に対する思いが芽生えるきっかけとなる。また社会人として、こうでありたいということを言葉で言える場所でもあるので、実施していくのが望ましい。 一方で、成人式は同窓会化、お祭化してきており、出身中の色を出すため目立つ行為や周囲の迷惑を考えず、モラルの低い行動が目立つ。式典後に各地区(旧市町村)で開催されており、内容も充実していた。 今後は各地域のみで実施した方が良いか、今回どおり2回式典の方が良いか検討する必要がある。
効率性	一生に一度ということや成人者が高校を卒業後初めて帰郷する時期でもあり参加者も多い。今回は各地域で式典を実施していることもあり、非効率的な面もある。	<伊良部地区> 今年の成人式は、新成人73人中68人(95%)が出席し、日程どおり開催できた。本年も高出席率で関係者からも好評であったが、新成人者数は毎年減少しており、開催日や会場等で多くの意見もあり、今後は伊良部架橋開通もふまえ、住民の意見も含め検討していく。
有効性	成人者を周りの大人が励まし、祝福することで、感謝する気持ちを持ち、励みになる。	

【内部評価】

式典自体は、年々工夫され新成人者の出席人数も多く、大きな盛り上がりを見せている。但し、社会人として一步を踏み込む大事な式典であるが、新成人者のモラルの低下や終了後、地域でも祝福されるといった現状があるため成人式の持ち方について、検討する必要性を感じている。

総合評価
C
(改善)

【外部評価】

担当者説明の効率性やコメントにあるように、23年度からは各地区で開催されていると承知しています。
成人式は地域で祝福するのが本来のあり方だと思うので、今後は各学区ごとで開催するよう(できれば自分たちの手作りで)進めてもらいたいと思います。

総合評価
B
(継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：伊良部分室

【主要施策】

V. 青少年の健全育成

【事務事業名】

追い込み漁・鰹一本釣体験学習事業

【目的・計画概要等】

◎目的：追い込み漁、鰹一本釣り、及び鰹加工業を体験することにより、地域の第一次産業への理解と水産業に関する基礎知識の習得と世代間交流を図ることを目的とする。

◎事業計画：体験学習事業実施校（佐良浜中学校全生徒） 実施時期（8月） 予算額 180,000円

①鰹一本釣及び加工体験

・鰹一本釣体験：3年男子（13名）3年女子（7名）保護者、教員（9名）
鰹船（2隻）、小型漁船（2隻）

・鰹加工体験：3年女子（9名）地域鰹節工場（3カ所）

②追い込み漁、郷土料理（魚料理）体験

・追い込み漁体験：1・2年男子（23名）保護者、教員（5名）
サバニ（1隻）小型漁船（5隻）

・郷土料理体験：1・2年女子（26名）保護者（13名）

【実施状況】

◎鰹一本釣及び加工体験（8月5日）

前日から漁協で待機し、午前1時から2時頃にかけて3年生21名（男子13・女子7名）が鰹船2隻と小型漁船2隻に分乗してそれぞれの漁場へ出港、明け方から釣り始め午後3時頃までには全船が帰港する。

3年女子（9名）は、地元の鰹節工場3カ所で鰹の3枚おろしを体験し、鰹節が出来上がるまでの工程を従業員から説明をうける。

◎追い込み漁及び郷土料理体験（7月9日）

1・2年生男子23名は朝9時頃から伊良部島北側の珊瑚礁で網を張り、陸側から全員で泳ぎながら魚を追い込んでいく漁法を体験。場所を変えて4回～5回の追い込み漁を実施し昼前に帰港し魚の水揚げを行う。

1・2年女子（26名）は男子が水揚げした魚をさばき、保護者の指導で郷土料理を調理し、全員で昼食会を行う。

決算額（財源内訳）

国・県	円
地方債	円
その他	円
一般財源	180,000 円
計	180,000 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	・地域や学校からのニーズは高い。 ・関係機関（保安庁・漁協・船主）への許可申請や協力船舶の確保等の手続きがあるため、市の関与が望ましい。	・本事業は、学校や地域からの継続実施のニーズが高く地域の第一次産業の継続発展において今後も継続して実施する必要がある。 ただし、海上保安署や伊良部漁協・船主組合・鰹節工場等の協力により本事業を実施しているが、海上での体験学習であるため、安全面において、十分な配慮が必要なことから日程調整に時間を要する事業であり市が関与しての継続実施が望ましい。
効率性	・年一回の体験学習であるが、事業の効率が高い。	
有効性	・生徒たちにとっては身近な産業であるが、初体験の生徒が多い中、関係者の熱心な指導で効果は得られている。	

【内部評価】

かつお一本釣・追い込み漁といった伝統漁法の体験を通して、第一次産業への関心を深めていくことは、次世代への育成及び伝統を残すといった貴重な事業である。
海での危険性も理解させるとともに協力いただく関係機関との連携を十分に行い、生徒の安全第一に努めていきたい。

総合評価

B
(継続)

【外部評価】

地域の歴史ある伝統を地域の子ども達が継承していくことは意義深いことだし、子ども達も地域の一員としての自覚を促すなど大変素晴らしい事だと思います。
地域の方言などの継承も困難な今日、佐良浜地区だけでなく、各地域と意見交換しながら、地域に合った多様な事業展開を期待したいと思います。

総合評価

A
(拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：宮古島市公民館

【主要施策】

VI. 社会教育の充実

【事務事業名】

公民館講座の開設

【目的・計画概要等】

目的：市民のために、実際生活に即する教育・学術及び文化に関する事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するため、市民のニーズに応じた各種講座を開設している。

計画概要等：

公民館名	主な講座名
中央公民館	パソコン講座、夏休み親子陶芸教室、絵手紙教室、三線講座、お父さんの料理講座
城辺公民館	高齢者大学・ストレッチ教室、陶芸教室・舞踊教室、書道講座
上野公民館	絵画教室、いきいきシルバー講座、夏休み子ども英会話、盆栽講座
下地公民館	ストレッチ講座、フラダンス講座、チャレンジらんど講座、パソコン講座
伊良部公民館	ヨガ講座、三線講座、琉舞講座、着付講座、料理講座、絵画教室

【実施状況】

公民館名	講座数	回数	募集定員	受講者数 (延べ)	決算額 (円)	決算額(財源内訳)	
						国・県	円
中央公民館	40	268	771	4,324	2,544,000	国・県	円
城辺公民館	10	100	215	1,322	738,000	地方債	円
上野公民館	11	79	174	945	426,000	その他	円
下地公民館	10	76	230	1,118	442,500	一般財源	4,450,500 円
伊良部公民館	6	49	110	922	300,000	計	4,450,500 円
合計	77	572	1,500	8,631	4,450,500		

*中央公民館には久松・西原・下崎3地区の公民館を含む

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	公民館に対する市民の学習ニーズは高く、どの講座においても定員を超える受講申し込みがあり公民館講座の拡充が必要である。	公民館に対する市民の学習ニーズは年々高まっており各講座とも定員を上回る受講申し込みがある。 市民の多様な学習ニーズに応えるためには、公民館講座の拡充が必要であるが、限られた予算と時間では主に基礎的な面を習得するに留まっているのが実情である。 よって、講座修了後は、サークル移行を促し更なる学習の継続を勧めている。
効率性	参加者に対してアンケート調査を実施し、学習要求(要求課題、開催時期・時間帯・曜日等)を把握し、市民の要望や必要課題を計画に取り入れ事業の効率性を高めている。	
有効性	各講座の内容・課題に沿って行われており、基礎・基本を習得する上で効果的に実施されている。	

【内部評価】

市民ニーズに応え、教育文化、芸術、実生活に役立つ様々な講座が開設され、定員を超える受講申し込みがあるのは意義深い。 今後は、さらに公民館の講座活動を市民に広く周知する必要がある。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

「多様な講座を開設して市民に受講してもらい、受講者のさらなる向上心に繋げる」ことではないかと思えます。ですから、講座ではあくまでも基礎的な部分を習得してもらい、講座修了後の学習の継続こそ評価に値するものであると思えます。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：上野公民館

【主要施策】

VI. 社会教育の充実

【事務事業名】

上野地区芸能祭の充実

【目的・計画概要等】

公民館講座やサークル活動、上野地域の伝統芸能や保育園児、幼稚園児、小学生、中学生、社会教育団体等の活動の成果を発表する場として上野地区芸能祭を開催している。

【実施状況】

講座(教室)名		回数	決算額(財源内訳)	
			国・県	円
上野地区芸能祭		1	国・県	円
			地方債	円
			その他	円
			一般財源	105,018 円
			計	105,018 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	合併後、上野公民館の利用者や公民館講座やサークル活動を発表する場として市民のニーズは高い。	博愛の里上野地域づくり協議会と上野公民館の共催事業として上野地区芸能祭を開催し、公民館講座、サークル活動、保育園児、幼稚園児、小中学生、社会教育団体等や地域伝統芸能保存会が参加して盛会であり、今後とも継続して開催していきたい。
効率性	〃	
有効性	博愛の里上野地域づくり協議会の上野まつりで、公民館も共催して上野芸能祭を開催し盛会である。	

【内部評価】

<p>地域主体で実施するこの催しは、第4回を数え子どもからお年寄りまで、年層が幅広く定着した事業となった。</p> <p>社会教育団体、サークル活動の発表の場として、利用者相互の交流が深められることは、地域の活性にもつながり、今後も継続して取り組むことを期待している。</p>	<p>総合評価</p> <p>B (継続)</p>
--	-------------------------------

【外部評価】

<p>地域の伝統芸能等を継承する意味においても、子供会から老人クラブまで集い伝統芸能等の発表会を開催することは意義深い事だと思います。</p> <p>できれば、上野地区の伝統芸能に特化した芸能であることを願います。</p>	<p>総合評価</p> <p>B (継続)</p>
---	-------------------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：下地公民館

【主要施策】

VI. 社会教育の充実

【事務事業名】

交流事業

【目的・計画概要等】

【台湾国際交流事業】
 アジアの国々との結びつきが深まる折、多感な中学生期に外国（台湾）を交流することにより、国際的な視野を広げ異国文化や自国（郷土）文化を尊重する態度を養い国際性豊かな人材を育成する。
 予算額：930,000円 宝くじ助成金（オータムジャンボ）

【白川町海・山交流事業】
 児童が自主的、主体的に子ども会活動参加し、子ども会活動の中での協調性、奉仕の心、環境への気配り、思いやりの心等を身に付けさせ、子ども会の活性化と資質の向上をはかるため、気候及び生活環境の異なる者同士が意見を交換し、寝食を共にして交流を深める。
 予算額：898,000円（同上）

【実施状況】

【台湾交流事業】 平成22年8月5日から8月10日の6日間下地中の生徒10人と台湾（漢口中 学）の生徒と交流し国際的視野を広げた。 決算額：928,600円	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
【白川町海・山交流事業】 平成22年7月24日から7月25日の2日間、白川町の児童生徒20名が来島 し、下地地域の児童生徒と海・山交流を深めた。 平成23年1月13日から1月16日の4日間、下地小学校の児童10人が、岐 岐卓白川町の児童達と冬場の体験交流を行なった。 決算額：882,027円	地方債	円
	その他	1,810,627 円
	一般財源	円
	計	1,810,627 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	【台湾国際交流事業】 異国文化及び国際的な視野を広げることで生徒及び父母等の関心は高い。 【白川町海・山交流事業】 気候及び生活環境の異なることで双方の児童とも交流会に関心が高い。	【台湾国際交流事業】 近年、国際社会の結びつきが深まる中中学生期に外国の文化及び生活習慣の違いを学び、貴重な体験を生かして、これからの学校生活にプラスになっている。
効率性	【台湾国際交流事業】 国際性豊かな人材を育成するためには効率性の良い事業である。 【白川町海・山交流事業】 限られた期間内で、実際に見聞し双方とも色々な意見交換し十分に交流会は高められた。	【白川町海・山交流事業】 双方とも、気候及び生活習慣の異なることを実際に体験し意見を交換することによって、視野を広げると共に子ども会活動の活性化が図られ意義ある交流会である。
有効性	【台湾国際交流事業】 中学生期に異国文化を体験し、学ぶことで生徒及び父母等からの要望があるため効果は得られている。 【白川町海・山交流事業】 交流会を通して、児童が自主的に子ども会活動に参加するようになり、その中で協調性や思いやりの心が育つ等の効果を得ることが出来た。	

【内部評価】

いずれも異なる生活習慣や文化を持った児童生徒が交流することは、歴史や文化、伝統などに対する理解を深めるとともに広い視野を持って異文化を理解することで、自主性・協調性などの面からも将来に向けての人材育成が大きく期待できる。	総合評価
	B (継続)

【外部評価】

評価について、事業の目的は「事業に参加したことで具体的な効果を得る」ことだと思います。そういった視点から評価指標を定めて評価していくことが必要ではないかと思いました。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：宮古島市立図書館

【主要施策】

VI. 社会教育の充実

【事務事業名】

- 1、図書館の基本サービスの充実
- 2、図書館の行事の充実

【目的・計画概要等】

- 1、図書館の基本サービスの充実
- 2、図書館の行事の充実
 - ①おはなし会（平良図書館、城辺図書館）
おはなし・読みきかせ等を通して、子供達の豊かな情操を育みながら本への興味を誘う。
 - ②ブックトーク（平良図書館）
テーマに沿って数冊の本を色々な切り口で紹介する読書案内と関連本の貸出を行う。
 - ③サマースクール（城辺図書館）
読書感想画の描き方を通し、読む楽しさ、表現する楽しさを知らせ、読書への関心を高める。
 - ④平和資料展（平良図書館、城辺図書館）
「慰霊の日」関連行事として、平和について考える図書資料を展示紹介する。

【実施状況】

1、図書館の基本サービスの充実				決算額（財源内訳）	
	平良図書館	城辺図書館	北分館		
登録率	30.5% (市全域)	86.9% (城辺地区)	0.3% (市全域)	国・県	3,958,905 円
貸出冊数	86,923冊	32,200冊	5,974冊	地方債	円
利用者数	26,119人	7,827人	2,393人	その他	円
レファレンス件数	973件	348件	0件	一般財源	125,643,072 円
リクエスト件数	386件	97件	0件	計	129,601,977 円

・利用状況は、前年と比べて貸出冊数が7%増、利用者数は0.9%増となった。
・平良図書館移転に伴う休館で利用者数の減はあったものの、新たに北分館が加わり貸出冊数は増加した。

2、図書館の行事の充実		
	平良図書館	城辺図書館
おはなし会等	47回・1,114人	11回・515人
ブックトーク	4回・50人・貸出224冊	-
サマースクール	-	低学年5日・15人 高学年・15人
子供映画会	8月25～27日・50人 12月24・25日 1月4・5日 40人	-
平和資料展	-	6月16日～21日

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	図書館は、図書館法に基づき、市民の学ぶ権利・知る権利を資料、情報提供の面から保障し、市民の生涯学習を支える社会教育施設である。	図書館サービスの基本は資料提供であり、このため、どこに住んでいてもサービスが受けられるようにすることが大切である。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館全体のサービス効果は、一般的目安として図書購入平均単価に貸出冊数を乗じて図書館経費で除した数値が用いられる。それに基づいて算出した結果、人件費を除いた場合で5倍、人件費を含めた場合でも、1.02倍と総投入経費を上回っている。 ・おはなし会等は、メイン行事として定着している平良図書館の「おはなしたまたまばこ」、城辺図書館の「おっぴいの会」のボランティア団体と連携して取り組み、効率性を高めている。 ・図書館サービスが拡充され、貸出冊数も増加している。 	伊良部地区・下地地区の移動図書館車によるサービス拡充が、各地区住民に定着し貸出冊数も増加した。 おはなし会等の図書館行事は、図書館メイン行事として定着しさほど経費を要しないで行うことができ、市民の関心も高く、資料貸し出しの面からも貢献している。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会、ブックトーク等は、ボランティアの協力により内容も多彩で子供から大人まで参加し図書館に親しむ機会拡充につながっている。 ・経費に対するサービス効果は高い。 	今後はボランティア等を積極的に活用し更なる利用範囲拡大に繋げたい。

【内部評価】

<p>図書館サービスは、どこに住んでいてもサービスが受けられるよう、資料の提供・情報の拠点という役割を担っている。</p>	総合評価
<p>生涯にわたり学習しようとする意欲向上を図るため、引き続き、移動図書館も含めての資料の充実やボランティア「おはなし会」などの協力を得ながら、図書館が身近な施設になるよう努めていきたい。</p>	B (継続)

【外部評価】

<p>図書館の基本サービスの充実については、現在仮庁舎で大変だとは思いますが、職員の知恵と工夫で頑張ってもらいたい。図書館行事の充実についても色々開催しているようで今後とも頑張ってもらいたいと思います。あえて、希望があるとすれば、図書館広報の充実と子ども向けだけでなく図書館行事の開催を望みます。</p>	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：中央図書館建設準備室

【主要施策】

VI. 社会教育の充実

【事務事業名】

中央図書館整備事業

【目的・計画概要等】

目的：新しい島づくり計画のリーディングプロジェクト「人と人、人とまちをつなぐネットワーク創造プロジェクト」事業として、文化情報拠点施設としての図書館を建設する。全ての市民の生涯学習や地域の情報拠点として、子どもから高齢者・障がい者等の利用に配慮・対応した図書資料の整備、ITを活用した「図書館サービスネットワーク」による情報提供および施設整備を図る。

計画概要等：平成23年度以降計画概要

平成22～23年度	地域資料収集アーカイブ計画・電算システム計画策定委員会設置 書架・家具整備計画検討委員会設置
平成24年度	基本計画
平成25年度	用地購入、実施設計
平成26～27年度	工事着工
平成28年度	開館予定

【実施状況】

平成22年 ・地域資料収集・アーカイブ計画策定作業（設置要領） ・電算システム計画策定委員会設置要領・資料収集 平成22年11月13日 講演会の開催 テーマ：「島おこし・町づくりと図書館」	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	248,480 円
	計	248,480 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	市民からのニーズは高く、これからの情報化社会へ対応した、施設整備が望まれる。	平成22年度は、各種計画策定委員会設置に係る要領・資料収集及び図書館づくりをテーマとした講演会を開催。 本事業は、合併特例債、過疎債の適用を予定。いずれも適用年限が平成27年度となっている。 新図書館建設候補地の宮古病院は、平成25年度の新築移転後取り壊され土地調査が行われた後、平成26年度3月に返還される予定となっている。今後、同病院の移転事業の進捗状況を注視しながら、建設用地の全体計画の確認・業務行程表に基づく、国との協議を進める必要がある。
効率性	事業費については、市の財政状況とも関連するが、市立図書館の建設は、本市にとって必要不可欠の施設と考える。	
有効性	新図書館は「すべての市民に開かれた情報センター」を基本方針としており、将来の情報化社会に対応した地域における拠点と位置付ける。	

【内部評価】

これまでの図書館の役割に加え、高度情報化社会を支える施設として、新しい図書館には文化情報拠点として大きな期待が寄せられる。 市民のニーズに応えられるべく、図書館としての機能を兼ね備えた施設整備ができるよう期待するものである。	総合評価
	B (継続)

【外部評価】

中央図書館建設準備室の組織体制がどうなっているかはわかりませんが、予算額と事業内容をみて驚いています。 宮古病院の移転との絡みもあり、スケジュールも間延びした印象を受けるが、建設時期が決まっている以上、担当組織の再検討が必要ではないでしょうか。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：宮古島市総合博物館

【主要施策】

VI. 社会教育の充実

【事務事業名】

子ども博物館

【目的・計画概要等】

宮古島市総合博物館の教育普及活動の一環として、小学校5、6年生を対象に「子ども博物館」を実施し、宮古の自然・歴史・民俗・文化などに関する体験学習を通して郷土に関する認識を深める。

【実施状況】

年6回の体験学習を行う。 毎回毎に参加者を募集 定員20～30人 参加料：無料 第1回「開校式」「史跡めぐり」(平成22年 5月16日) 講師 下地 和宏 第2回「遊び道具を作ろう」(平成22年 7月25日) 講師 親泊 宗二 第3回「湧き水の観察会」(平成22年 8月15日) 講師 藤田 喜久 第4回「苧麻糸づくり」(平成22年11月21日) 講師 下地 正子 第5回「紙漉き」(平成22年12月 5日) 講師 仲間 伸恵 第6回「食べられる野草を探そうジュウシ作り」「閉校式」 (平成23年 2月13日) 講師 川上 勲	決算額(財源内訳)	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	134,000 円
	計	134,000 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	宮古島の民俗や歴史、自然を専門家の講師を招いて実際に体験できるものとして、参加者数や問い合わせ数などの点からもニーズは高いといえる。	現在、学校でも郷土の歴史、民俗、自然を学ぶことは重要視されてきている。 博物館では、各分野の専門家を講師として招き、体験学習等を行う事で、子ども達の理解が深められる。 また、異なる学校から参加する受講生が交流を深める場としても有効である。 子ども博物館には2年続けて受講する生徒も多く博物館としても毎年異なる講座メニューを設定し、魅力ある事業づくりを展開している。
効率性	事業費(コスト)に比して受講人数及び学習内容、回数は充実しており、効率性は高いと考えている。	
有効性	実際の体験学習を通して、講師へは多くの質問があり、非常に活発に受講している姿が見られる。また、次年度において兄弟での参加も多いことから、その有効性は高いといえる。	

【内部評価】

年間を通して、多岐(歴史・文化、自然・環境等)にわたり実施されている本講座は、子どもたちにとって、関心も高まっている。 体験学習のみならず受講者間で交流も深まっており、小学校5、6年生に対象者を拡充されたことについては、今後の博物館事業に大いに期待できるものである。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

地域の歴史、文化に即した事業で大変素晴らしいと思う。 参加募集をどのように行っているか承知していないが、ぜひ、定員を増やすか、回数を増やすかして多くの子どもたちに参加してもらいたいと思います。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：市民スポーツ課

【主要施策】

VII. スポーツの振興

【事務事業名】

全国高校総体開催業務

【目的・計画概要等】

目的：高校生最大のスポーツの祭典である全国高校総体が沖縄県で行われ、本市においては男子バレーボール競技大会を開催し、関係機関・団体、市民の協力を得て、本市のスポーツ振興を図るとともに宮古島市を全国にアピールし、「こころつなぐ結いの島 宮古」の実現を目指す。
また、「高校生一人一役活動」として、地元の高中生一人一人が主役となり大会の準備、運営に積極的に参加する。

主な事業計画

- ・各種会議の開催（各専門委員会、委員長会等）
- ・大会PR活動（ホームページの立ち上げ、残暦板設置、のぼり旗、横断幕等の作成、設置）
- ・男子バレーボール競技関係諸会議（準備状況説明会、予選グループ抽選会、代表者会議等）
- ・平成22年度全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技大会の開催
- ・予算額 国・県29,383千円、市22,055千円、その他3,804千円

【実施状況】

4/13	実行委員会委員長会議の開催	決算額（財源内訳）	
4/23	実行委員会第3回総会の開催		
7/30～8/3	平成22年度全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技大会の開催 選手670人 監督・マネージャー112人 競技役員331人 競技補助員455人 運営役員441人 運営補助員606人 延べ観客数約15,500人	国・県	23,500,000 円
12/10	第2回実行委員会委員長会議の開催	地方債	円
12/22	実行委員会第4回総会の開催	その他	4,617,779 円
		一般財源	22,055,000 円
		計	50,172,779 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	全国的に実施される高校生最大のスポーツ祭典が沖縄県各地で開催されることとなった。本市でも男子バレーボール競技が5日間にわたり熱戦が繰り広げられた。	高校生最大のスポーツ祭典が沖縄県で開催され、宮古島市においては、男子バレーボール競技が総合体育館を主会場に5日間、展開された。 平成19年度に推進室を設置して以来、職員を配置し当大会がスムーズに開催されるよう取りくんでおり、平成22年度第4回総会において、決算報告等すべての承認を受け、解散した。 成果として、選手のみならず応援する者も数多く、宮古島を訪れ、島全体が盛り上がった。
効率性	全国から56チーム、784名の選手や関係者、応援団も訪れ、総勢約15,500人の観客動員数を数え、活気ある5日間であった。	
有効性	上記に加え、宮古島全体が盛り上がり、経済効果も大きいものといえる。	

【内部評価】

短期間の中で、推進室の設置から競技実施まで、スムーズに開催されたことは、評価したい。宮古島全体が活気あふれた5日間であった。	総合評価 E (完了)
--	-------------------

【外部評価】

全国大会という大きなイベントの開催、大変お疲れ様でした。今後は「この大会を契機に本市のスポーツ振興を図る」という目的に向かって具体的な計画を示して、市民を巻き込んでスポーツ振興を図って頂きたいと思います。	総合評価 E (完了)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

VIII. 文化の振興

【事務事業名】

文化祭事業「児童・生徒の部」・「一般（春・秋）の部」

【目的・計画概要等】

1) 児童・生徒の部 目的：次世代の文化の担い手を育み、新しい文化の創造や先人達が培ってきた地域文化の伝承・発展に寄与するとともに、宮古島市の文化を広く発信する。
 ○展示部門（書道展・美術展・文芸展（作文／詩・俳句・短歌）・自由研究展）
 ○発表部門（高校生の主張大会・郷土の民話大会・音楽祭） ○表彰式
 ※当初予算額：1,226,000円（文化振興費・文化祭事業費）

2) 一般（春・秋）の部 目的：市民の各層各位の創造的活動に根ざした文化のまちづくり。
 ○展示部門（書道展・美術展・華道展・写真展・文芸展・生活文化展 ○郷土史部門
 ○児童文化（こどもシアター） ○音楽祭 ○芸能祭 ○芸術劇場
 ※当初予算額：1,000,000円（宮古島市文化協会へ委託）

【実施状況】

1) 児童・生徒の部 ○展示部門 10月30日・10月31日（書道展・美術展・文芸展・自由研究展） ○発表部門 9月27日（高校生の主張大会） 11月6日（郷土の民話大会） 11月7日（音楽祭） ※決算額：1,108,596円 ※出品数：小（3837点）中（658点）高校（1066点）特別支援（149点） 2) 一般（春・秋）の部 ○展示部門 6月26・27日（春の部）盆栽・園芸・宮古織物・茶道・木工部 10月23・24日（秋の部）写真・美術・文芸・華道・書道・生活文化 ・郷土めぐり ○発表部門 11月28日（音楽祭）12月2日（こどもシアター） 12月19日（芸能祭）3月30日（芸術劇場） ※決算額：1,000,000円	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	2,108,596 円
計	2,108,596 円	

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	本文化祭は、市民各層の文化活動の拠点であり、ニーズは高い。また、市文化行政の要として文化活動への市民参加の促進、関係団体の育成や連携強化に努め、創造性豊かな芸術文化活動の活性化を図るための施策として重要。	文化祭の場を通して市民各層の文化活動の成果を発信するとともに、児童生徒の文化活動の活性及び文化向上に寄与することができた。文化祭「一般の部」は、春と秋の部に分かれ、各分野の成果発表にふさわしい時期となっている。一方、「児童・生徒の部」は10月から年末に向けて他の行事等と重なる為、現状を見直し、開催時期を分散するなど検討が必要と考える。
効率性	「一般の部」は、春・秋ともに市文化協会への業務委託によって効率性をより高めることが出来ている。また、「児童・生徒の部」は、行政と学校との協働により事業の効率性を図ることが出来る。	
有効性	年中行事として長年開催され、その効果は大きく、児童生徒・市民にも浸透している。今後も市民と行政との協働により、文化の継承・発展に寄与する事業として改善・継続していくことが必要。	

【内部評価】

生涯学習において、発表の場を設けることは意義深い。特に児童・生徒の部に出品数は5,710点を数えるほか、音楽祭・高校生の主張大会など市民に開かれた文化継承・発展に大きく寄与している。また、一般の部においても各部門(盆栽・書道・写真など)において出展数は多く、関心が伺える。年間を通して、児童からお年寄りまで生涯学習に親しむ事業として定着している。	総合評価 B (継続)
---	-------------------

【外部評価】

児童生徒の部については、目的にあるように「次世代の文化の担い手を育み」「文化の伝承・発展に寄与」していることは間違いないと思う。今後とも関係者のみなさんのご奮闘に期待したいと思います。一般の部については、出展数は多いと評価しているが、目的が「創造的活動に根ざした文化のまちづくり」であるならば、出展数だけではなく参加者の増減による評価もあっていいのでは、と思います。	総合評価 B (継続)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

VIII. 文化の振興

【事務事業名】

市史編さん事業

【目的・計画概要等】

平成17年10月「宮古島市」が誕生、改めて宮古圏域全体を対象に5年計画で琉球・沖縄史、日本史も視野におさめ、教育現場で指導教材としても活用できる「宮古島市史」が想定されています。
 今日までの市民の歴史を記録し、その発展過程を解明するために、平良市史（10巻）、城辺町史（5巻）、多良間村史（全6巻）、及び伊良部村史（1巻）、下地町誌、上野村誌等が編さん事業や町村制施行記念事業として取り組まれてきました。
 今回の「宮古島市史」は、こうしたこれまでの成果を踏まえるとともに旧市町村史編さん事業の過程において残された課題や、新たに発掘された史資料を加えて編集発行するものです。
 *当初予算額：5,592,000円

【実施状況】

宮古島市史編さん構想 第1次構想（平成18年～平成22年度） 18年度 宮古島市史編さん大綱策定 19年度 通史編：資料収集 資料目録作成 20年度 通史編：通史編執筆 資料収集資料目録発行 21年度 通史編：通史編執筆 原稿の検討 22年度 通史編：通史編執筆 原稿の検討 編集	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	4,756,574 円
	計	4,756,574 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	一般に「沖縄史」というとき、往々にして首里、那覇を中心とした沖縄本島に限定され宮古・八重山は欠落しがちです。宮古島市史編さん事業のもつ意義がここにあります。	今回の「宮古島市史」は、こうしたこれまでの成果を踏まえるとともに、旧市町村史編さん事業の過程において残された課題や、新たに発掘された史資料を加えて編集発行されるものです。 また、市民に親しみやすい宮古の歴史を編さんし、郷土への誇りを育む意義もあります。 宮古島市史編さんは、あすの宮古づくりの市民のよき道標となることを目指しています。
効率性	宮古島市史とはいえ、多良間村も含めた宮古郡全体を視野に収め沖縄全域のひいては、日本の歴史の中で欠くことのできない重要な構成部分として位置づけてあります。	
有効性	宮古圏域全体を編集の対象とし、広く沖縄全域、日本全国を視野に編集され、貴重な史料となります。	

【内部評価】

平成17年の合併後、宮古圏域すべての膨大な資料を収集・編さんすることは大変な尽力であったと評価できる。 市史のこれからの生涯における学習の教材として、大いに期待できるものである。	総合評価
	B (継続)

【外部評価】

宮古の歴史を編纂することの重要性は誰もが認識していることだと思います。 特に今回は合併前にそれぞれの市町村ごとに編纂していたものを宮古群全体を視野に入れた作業と言うことで貴重な資料となることでしょう。 早く発行されることを期待します。	総合評価
	B (継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：宮古島市総合博物館

【主要施策】

VIII. 文化の振興

【事務事業名】

博物館企画展

【目的・計画概要等】

文化の振興を図ることを目的として、歴史、民俗、芸術、自然科学に関する企画展を開催し、常設展と併せ市民に広く紹介する。

【実施状況】

第13回企画展「下地明増・堀泰明作品展 ～ウィズ ラブ 宮古島～」 期間：平成22年5月1日～5月30日(入館者：2,021人) 第14回企画展「宮古にもちこまれた動物たち ～どうしてここにいるんだろう～」 期間：平成22年7月21日～8月29日(入館者：2,608人) 第15回企画展「旧市町村収蔵品展」(宮古島市制施行5周年記念) 期間：平成22年11月30日～12月26日(入館者：1,106人) 第16回企画展「宮古人のルーツを探る Part 1-12～16世紀の宮古」 期間：平成23年2月1日～3月6日(入館者：1,103人) 特別展示 文化の日関連展示 博物館収蔵市指定文化財(歴史資料)及び旧家資料展 期間：平成22年3月2日～3月31日(入館者：693人)	決算額(財源内訳)	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	2,134,000 円
	計	2,134,000 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	企画展は毎年度、歴史、民俗自然科学の各分野ごとにテーマを設け、館内外の貴重な資料を見ることが出来る場として来館者数の点からも市民のニーズは非常に高いといえる。	企画展は、博物館の業務である「収集・保管」「展示・教育」「調査・研究」を総合的に網羅する主要な事業である。毎年度ごとに宮古島の歴史、民俗、芸術、自然科学の各分野のテーマを設けた企画展を実施しており、市町村単位の博物館としては県内唯一の総合博物館である。 また、企画展以外にも、慰霊の日や文化の日に関連した特別展の開催や市外からの研究者による調査成果を報告する博物館講座などは、郷土の歴史、民俗、芸術、自然科学の新たな情報(研究成果)を発信する博物館の事業として非常に貴重なものといえる。
効率性	離島であるが故に市外の資料を借用・展示する際の輸送費用があるが、企画展、特別展など回数、規模を考慮するとその効率性は高いといえる。	
有効性	企画展開催中は来館者も飛躍的に伸びることから、その効果は非常に大きいといえる。また、慰霊の日や文化の日などに関連する特別展などには学校を始め、各種団体見学も多く見られる。	

【内部評価】

企画展は、毎年2回開催されているが、入場者数からみても充実した期間で実施されている。 また、市内沿道に横断幕の設置、新聞等による市民への周知が積極的になされ、職員の取り組みが評価できる。 その他の博物館の事業においても、年間を通して実施されており、郷土歴史・芸術文化といった生涯学習に寄与する事業も展開されている。	総合評価
	B (継続)

【外部評価】

それぞれのテーマが宮古に関わった興味をそそるもので、是非見てみたいと思わせる企画展です。 要望ですが、目的の「文化の振興を図る」をもっと企画展と関連づけてほしいと思います。 「歴史、民族自然科学の各分野ごとの貴重な資料等に直接市民がふれることで興味を深め、もって市の文化振興・・・」等々、検討していただければ幸いです。	総合評価
	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

VIII. 文化の振興

【事務事業名】

文化財保護事業

【目的・計画概要等】

平成17年の合併後、宮古島市の抱える指定文化財（国、県、市）は県内最多の114件となり、また、その他指定候補として貴重な文化財も数多く所在している。
 これらの文化財の保護を広く周知するため、環境整備や保存活用管理業務、文化財保護審議会等の運営、各管理団体等への指導、学校及び一般市民への文化財に関わる情報提供などを行う。

【実施状況】

宮古島市文化財保護審議会の開催	決算額（財源内訳）	
第1回・・・平成23年 6月 4日（土）開催	国・県	円
第2回・・・平成23年 7月 23日（土）開催	地方債	円
第3回・・・平成23年 9月 24日（土）開催	その他	円
第4回・・・平成23年11月26日（土）開催	一般財源	8,461,000 円
第5回・・・平成24年 1月 28日（土）開催	計	8,461,000 円
第6回・・・平成24年 3月 24日（土）開催予定		
※基本的に奇数月の第4土曜日に開催する。		

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	近年、開発行為申請及び鉱業権出願並びに市有地売買に係る土地について文化財等有無の照会が多く文化財の適切な保護のため必要である。	担当者1人の体制では文化財の適切な管理に支障を生じており、人員確保に早急な改善策を図る必要がある。 また、文化財保護審議会については、指定候補物件の現状に応じ、緊急性を要するものから審議を行うものとし、6回の基本回数は実施するようにしたい。 なお、指定文化財等については、市民への公開の義務も発生するので、環境整備を充実して、より良い公開の場を提供できるよう努めたい。
効率性	計画的な整備により、文化財の美観や観光資源としての活用が図られ、広く文化財愛護精神を発信することが可能となると考えられる。	
有効性	後世に伝える、市民（国民）の共有財産として、文化財の保護活用ができる。	

【内部評価】

宮古島市一帯に点在する文化財の保護及び指定(解除)に関しては、文化財保護審議会委員の専門的な立場が重要である。 今後とも周辺環境整備も含め、文化財の保護に努めていきたい。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

文化財保護事業は行政の重要な事業の一つだと思いますが、なかなか市民への周知ができていないのでは。現体制では困難かもしれませんが、できれば宮古島市の管理する文化財の周知に力を入れてもらいたいと思います。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：文化ホール

【主要施策】

VIII. 文化の振興

【事務事業名】

文化ホール自主事業

【目的・計画概要等】

地域独自の風土の中で育まれた文化の育成と、新たな文化と伝統文化の融合・発展を先導するための文化拠点とすることを目的として、舞台公演・鑑賞事業・文化交流事業を実施する。

◆文化交流事業（マティダワークショップ）
小・中学生を対象に、劇場内部の仕組みを紹介するとともに、直接機器の操作を行うなど舞台裏の仕事を経験することで将来の進路、職業等を考える機会を提供することを目的として実施する。

◆鑑賞事業（市原悦子トークライブ）
宮古島市制施行5周年記念事業の一環としてテレビ・舞台等の第一線で活躍中の女優市原悦子さんを招いて「朗読とお話の世界」と題してトークライブを開催し、児童・生徒が優れた話術や芸術文化に触れることにより、豊かな感性を育むことを目的として実施する。

◆舞台公演（マティダライブ）
中・高校生や若年層の劇場利用が少ないため、これらの需要喚起と若年層の音楽活動等の支援および育成を図る目的で実施する。

【実施状況】

◆マティダワークショップ 「舞台づくりのおもしろミニ講座」を実施。 参加人数：20名 決算額/歳入なし 歳出なし ◆宮古島市制施行5周年記念事業 女優市原悦子によるトークライブ「朗読とお話の世界」を実施。 入場者数/700名 決算額/歳入：なし 歳出：500千円 ◆マティダライブⅡ 高校生バンド6組・ダンスチーム2組・書道パフォーマンス1組 (出演者：43名、ボランティアスタッフ：25名) によりライブ公演を行った。 入場者数/550名 決算額/歳入：275千円 歳出：638千円	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,138,000 円
	計	1,138,000 円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	劇場の位置づけや役割を市民に周知する観点から自主事業は不可欠である。また、市民のニーズに応えるためにも行政の関与は必然である。	自主事業の実施については、招聘事業のようなギャランティーのかかる催しが出来ないのが実情で、思うような公演の開催ができない。しかし、市民の多様な文化ニーズに応えるため、文化ホールの役割である、「アウトリーチ」に積極的に取り組んで地域の伝統芸能や舞台芸術活動の推進を図り、それに伴う人材育成に努めることがこれからの課題と言える。 平成23年度においては、児童生徒が演劇を通して表現力や社会性を身につけ、心の成長を図ることを目的としてこども劇団の立ち上げを予定している。 ※「アウトリーチ」：地域に手を差し伸べ文化活動を推進する
効率性	行政が行う舞台芸術事業は、費用対効果を数値に表す事が難しい、特に地方にあっては顕著である。感動指数があるとしたらアンケートなどから伺えるように観客の反応は高い。	
有効性	特に「マティダライブ」にあっては、学生に発表の場を提供するとともに、学生自身が自主的な企画・運営を行うことで、創る喜びや達成感を共有し、成長する機会となった。	

【内部評価】

劇場型文化ホールであるマティダ市民劇場は、年間5万人を超える入場者数を数えている。 ここ数年においては、高校生等によるダンスパフォーマンスなど積極的な参加傾向にあり、定着してきている。また、市町村5周年記念事業では、女優としてお馴染みの市原悦子さんの「トークライブ」が開催され、来場者らも話術を楽しんだ。 次年度は、演劇を通して児童・生徒の成長が期待できる宮古島市こども劇団が設立されることになっているので、取り組みに期待したい。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

マティダワークショップは小中学生に普段なかなか見られない舞台裏を経験させるいい機会だと思います。目的にあるように将来の進路、職業等を考えるきっかけになるでしょう。 マティダライブも素晴らしい企画だと思います。 高校生が企画から運営まですべて自分たちで行い、達成することで自信にもなり、将来へつなげる経験です。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育施設課

【主要施策】

IX. 教育行政の充実

【事務事業名】

北小学校校舎改築事業

【目的・計画概要等】

教育環境の充実を図るため、小学校校舎の整備に努める。
又、非常災害時には、避難場所として防災上も重要な役割を担っていることから地域に開かれた施設づくりを図る。

【実施状況】

面積：4,778㎡ 工事費：1,959,464,027円 工期：平成21年12月18日～平成22年11月5日 (2カ年度継続事業)	決算額(財源内訳)		
	国・県	664,827,000	円
	地方債	351,900,000	円
	その他		円
	一般財源	33,737,027	円
	計	1,050,464,027	円

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)コメント
必要性	昭和56年度以前の校舎を児童が使用する状況は好ましくないため、早急に改善する必要がある。	事業施行により、新耐震基準に準拠した安全性、快適性をめざした施設の充実を図ることができた。
効率性	高コストであるが、安心・安全を優先した結果である。	
有効性	新耐震基準を満たした新しい校舎に改築することで、建物の安全性が確保され、地震により児童及び教職員に被害が及ぶ危険性が解消された。	

【内部評価】

昭和56年以前の校舎において、新耐震基準に応じた耐力度調査を実施している。 今後とも長期施設整備計画に沿って、子どもたち並びに教職員の安全で安心な校舎改築を築けていきたい。	総合評価 E (完了)
---	-------------------

【外部評価】

新たな校舎で児童生徒が意義深い学校生活を送ることを希望します。	総合評価 E (完了)
---------------------------------	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

IX. 教育行政の充実

【事務事業名】

宮古島市教育委員の活動

【目的・計画概要等】

宮古島市における様々な教育課題を解決し、適切な教育行政の運営に資することによって、教育の振興を図ることが教育委員活動の目的です。その為、具体的には月に1回の定例会、必要に応じて臨時会を開催しており、主に教育に関する基本的な方針や規則・要綱の制定などを決定します。
今後も積極的に地域の実情や住民の意向を把握し、教育施策展開を図ります。

【実施状況】

会 議：定例委員会12回 臨時会8回 学校訪問：74回(入学式・運動会・教育の日・卒業式等) 研 修 会：13回(県主催、校長研修会、宮古地区合同研修会) 施設訪問：6回(外部施設) そ の 他：26回(学習会、成人式等)	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	3,192,054 円
	計	3,192,054 円

【担当者説明】

区分	説 明	担当者(主管課)コメント
必要性	地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置されている。	各委員とも学校訪問及び県主催又は宮古地区での研修会等、積極的な活動を展開しており、宮古島市、圏域の教育行政の諸課題等に取り組み、教育行政の発展に寄与している。
効率性	各小中学校の各種行事（入学式・運動会・卒業式等）や県主催の研修会に参加するなど宮古島市の教育行政の発展のために積極的に活動している。	
有効性	諸課題などを各委員で議論・協議することで、解決策を見いだしている。	

【内部評価】

県主催の研修会や学校行事への積極的な参加を行っているが、今後とも幼・小・中の授業参観や子ども達と話す機会を設けるなど学校現場をはじめ各分野の課題を探り、解決に向けて取り組む必要があります。 また、教育委員会の事業計画など、市民に周知を図るため広報誌の発行やホームページを活用した積極的な広報活動を展開する必要があります。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

研修会など積極的な活動を重ね、学校や家庭、地域の声（意見）を聞き、連携を取りながら宮古島市の子どもの学力向上を目指すとともに、伝統文化の継承や教育行政全般の諸課題等の研鑽に努めていただきたいと思います。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------